

# 経営比較分析表（令和元年度決算）

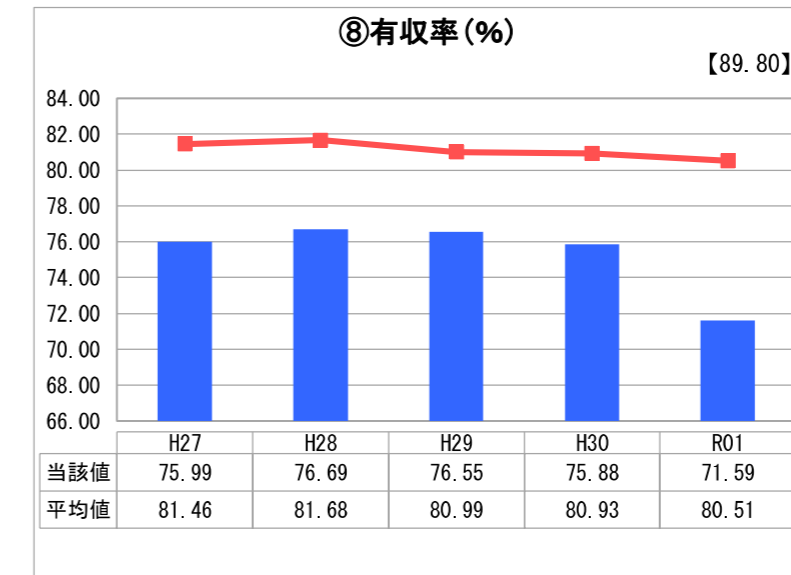
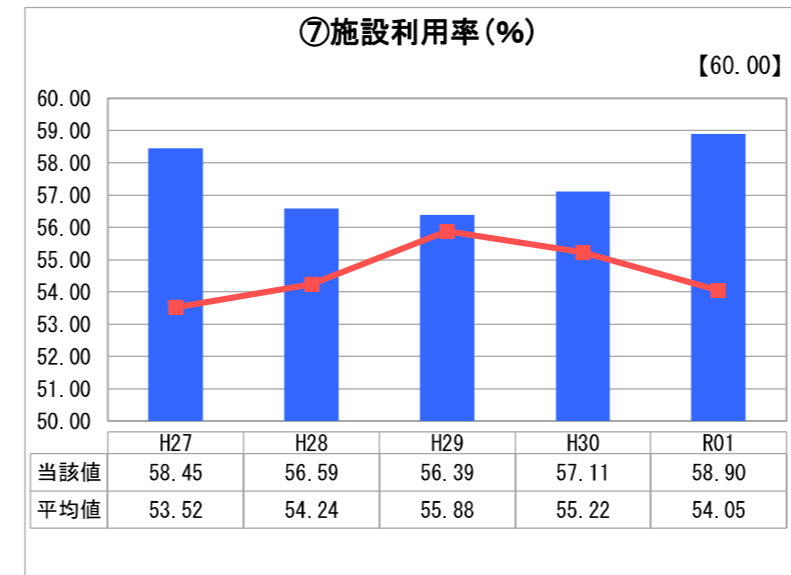
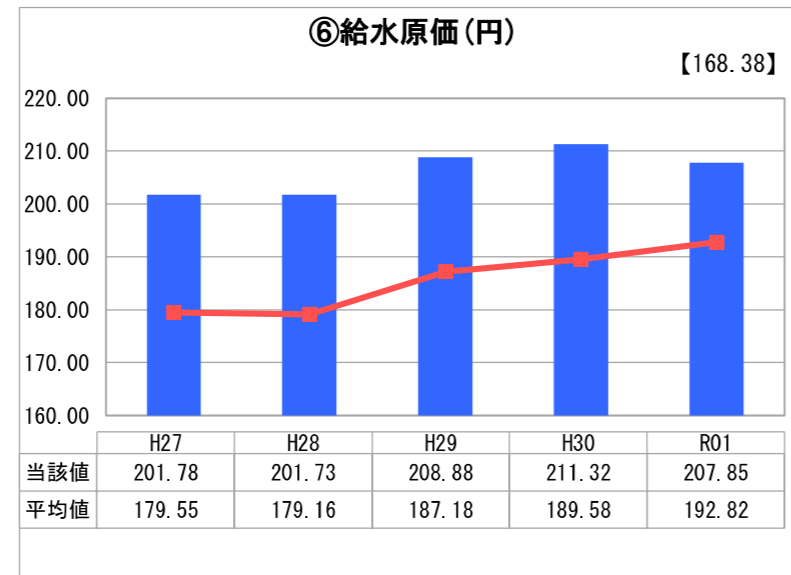
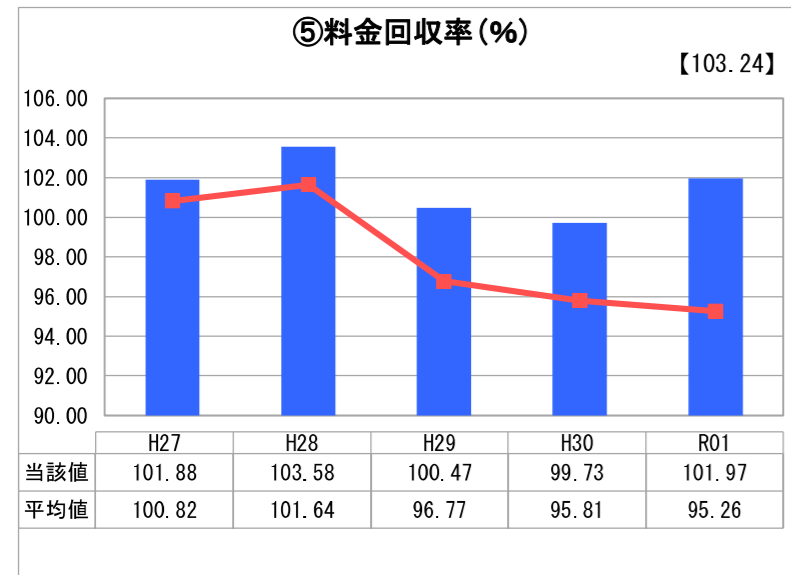
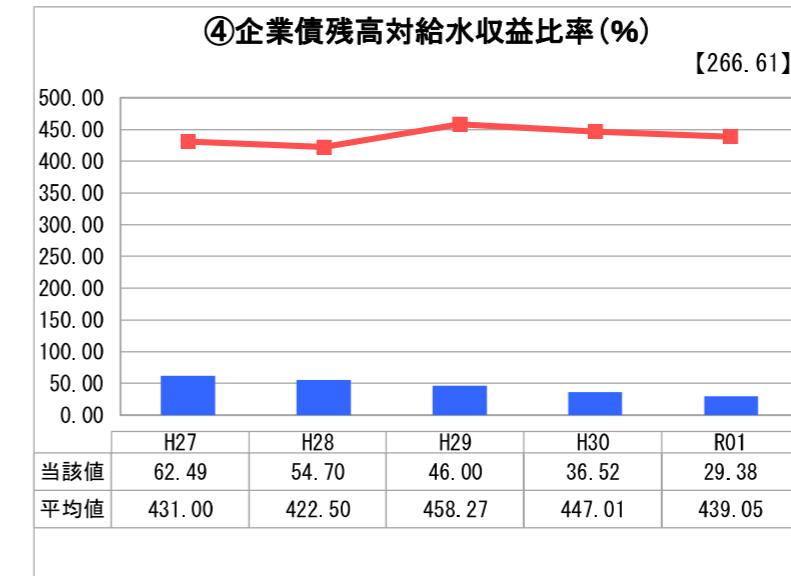
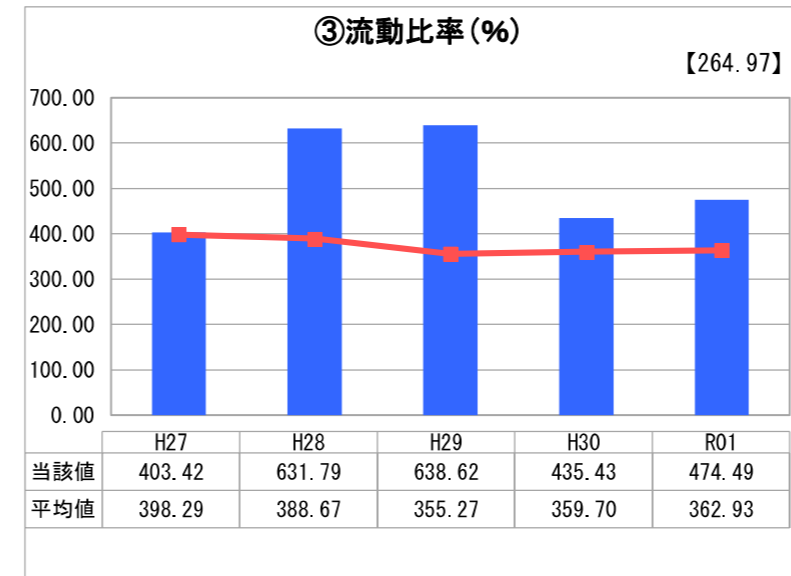
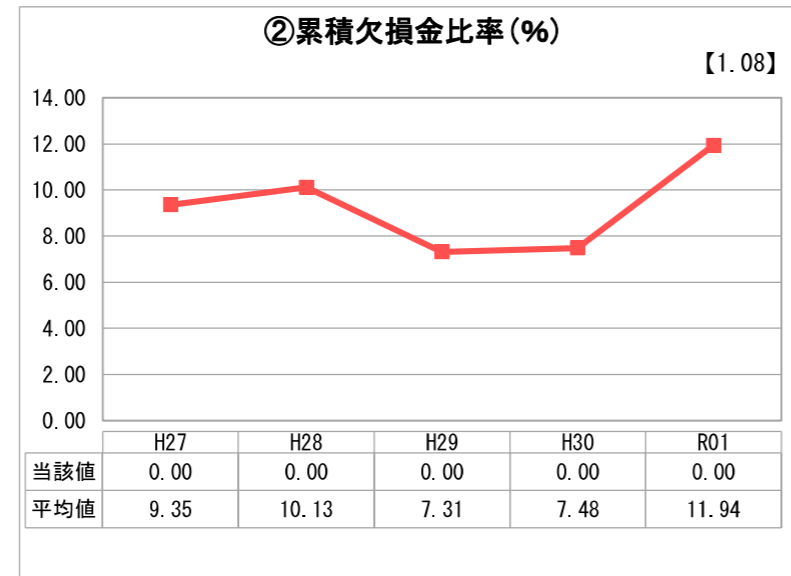
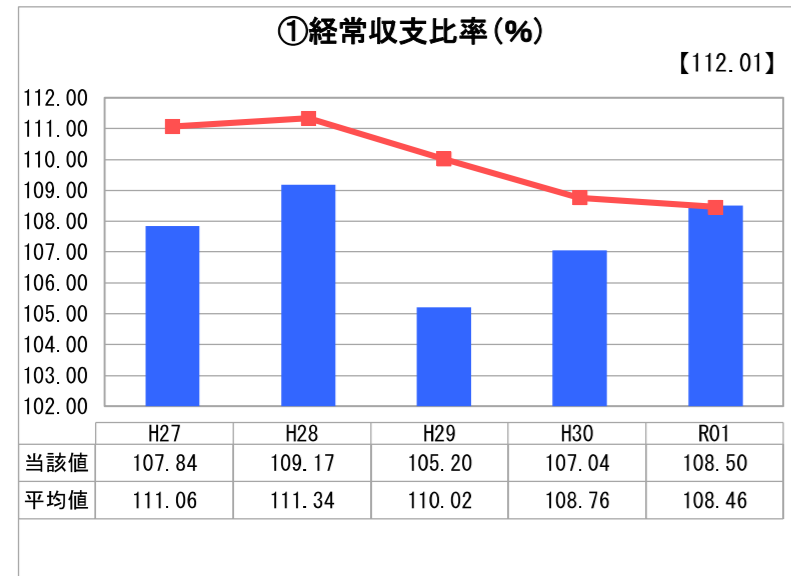
埼玉県 越生町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A7	自治体職員
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円)	
-	92.15	99.88	3,465	

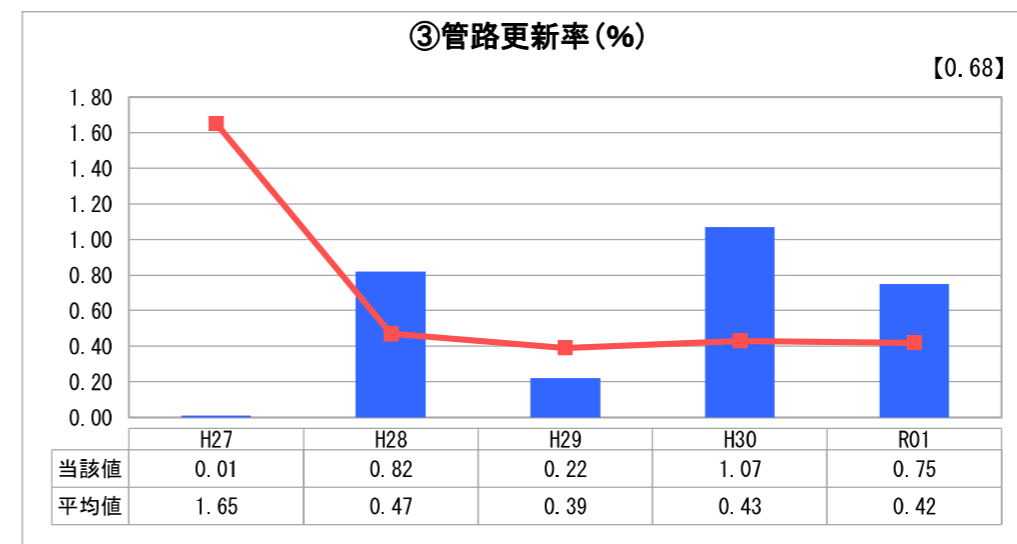
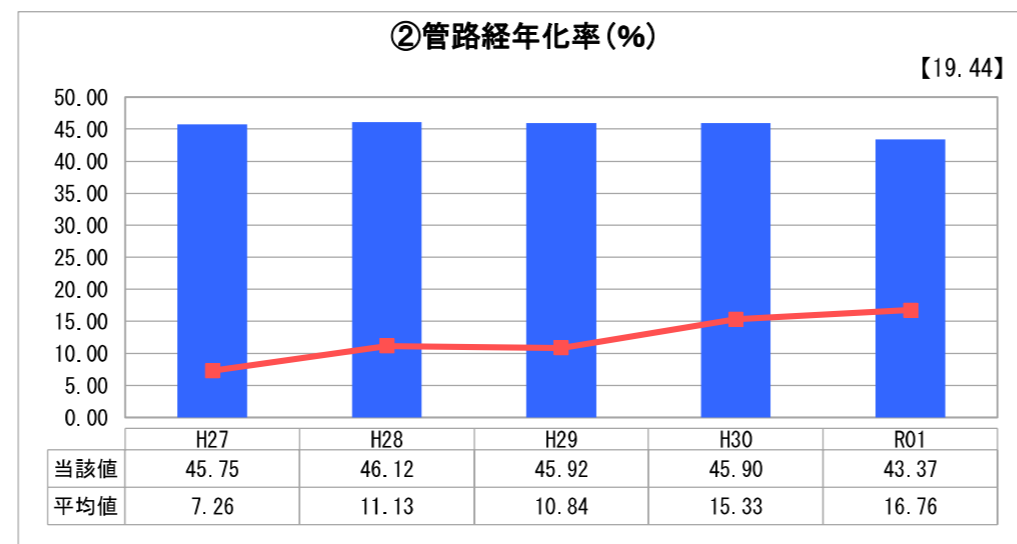
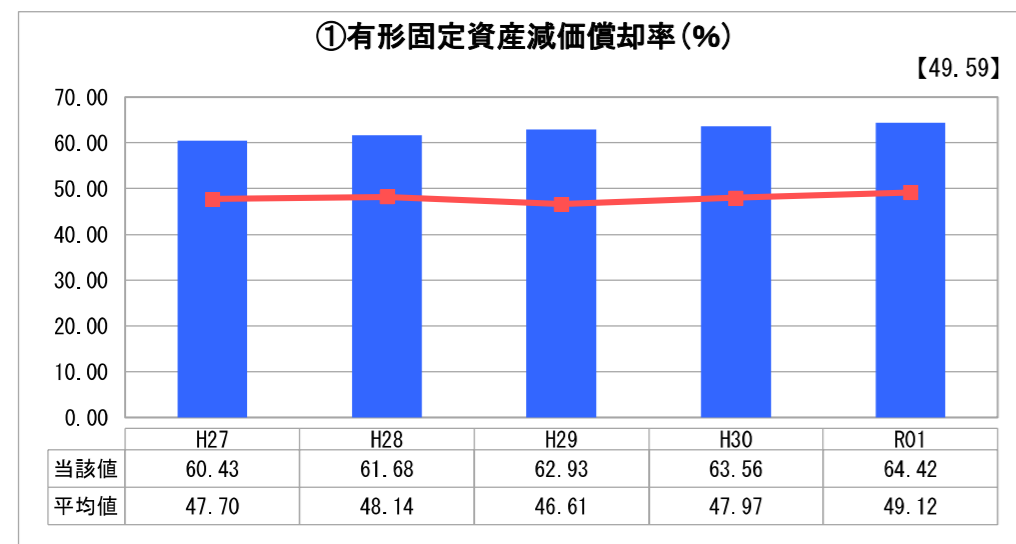
人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
11,567	40.39	286.38
現在給水人口(人)	給水区域面積(km <sup>2</sup> )	給水人口密度(人/km <sup>2</sup> )
11,476	16.62	690.49

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
【	令和元年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 2. 老朽化の状況



## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

経常収支比率は、100を超えており類似団体とほぼ同じ割合となっております。累積欠損金比率については、平成27年度から0となっております。流動比率は、前年に比べ若干増加し、依然100%を遙かに超えた値となっております。企業債残高対給水収益比率は、必要な更新が先送りの状況であり、償還のみで減少しています。料金回収率は、100%を越えましたが、今後更に費用削減に努めます。給水原価は、増加傾向から若干減少に転じましたが、類似団体と比較しても高い値となっております。施設利用率は、給水人口の減少により、減少傾向が続いておりましては、増加傾向となっております。有収率につきましては、依然類似団体と比較しても低い値となっており、漏水調査を重点的に進め、有収率の向上に努める考えであります。

### 2. 老朽化の状況について

昨年に引き続き有形固定資産減価償却率及び管路経年化率が類似団体の平均より高く、特に管路経年化率は平均値を約30ポイント超えております。管路更新率は、平成30年度・令和元年度は増加しました。老朽化対策として、平成30年度に行ったアセットマネジメントを基に令和2年度に経営戦略を策定する予定です。この更新計画に基づき、老朽化対策を早急かつ効率的に実施します。

### 全体総括

水道事業収益の根幹を成す給水収益は、人口減少に伴い年々減少していくことが予想されます。これに対する支出については、浄水方法等を含めた根本的な運営の見直しを図り、経費削減を推進しなければなりません。また、施設の更新については、耐用年数を超える施設や管路の増加が顕著なため、優先的な箇所を特定し、これから策定する経営戦略を基に計画的かつ効率的な対策を推進します。

# 経営比較分析表（令和元年度決算）

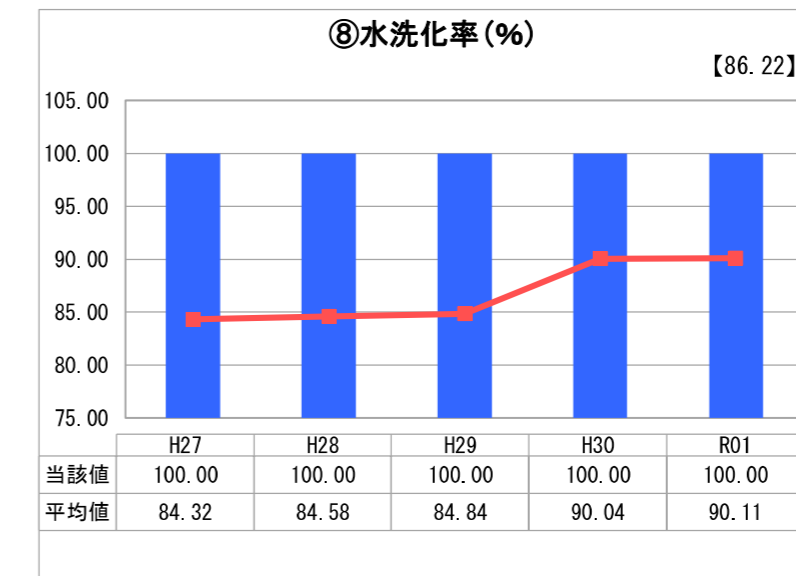
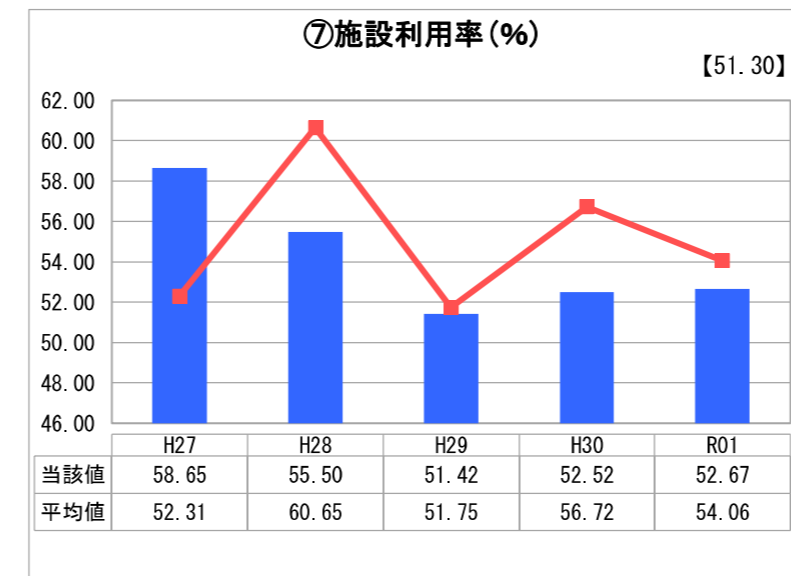
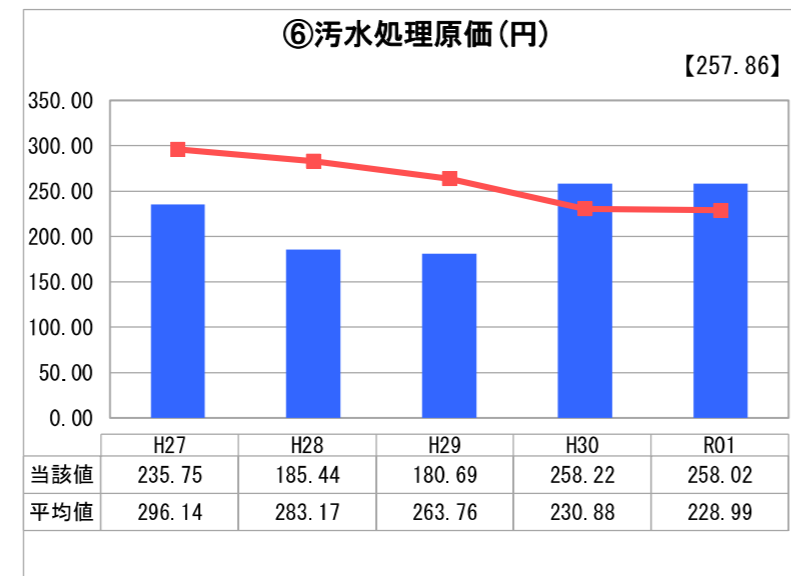
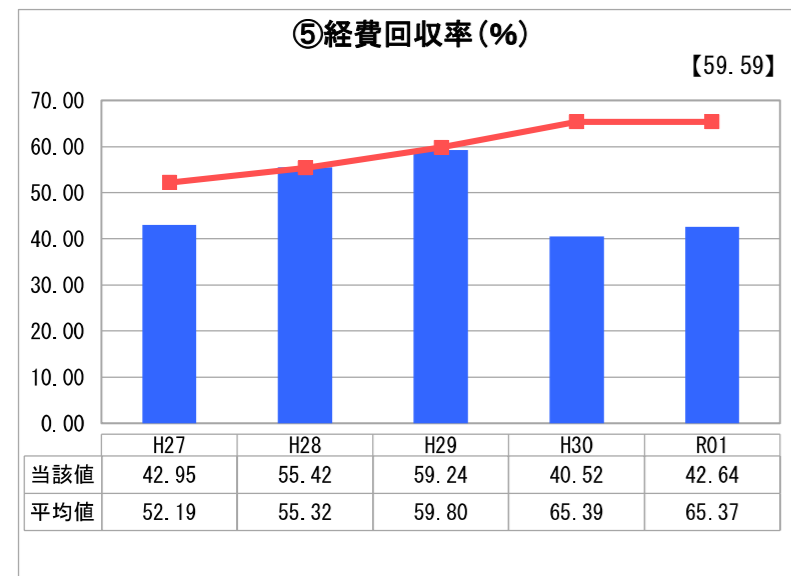
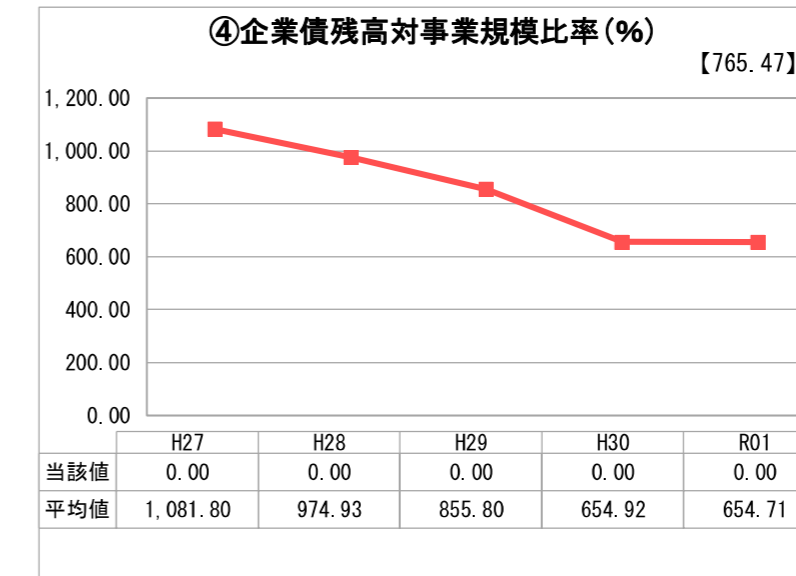
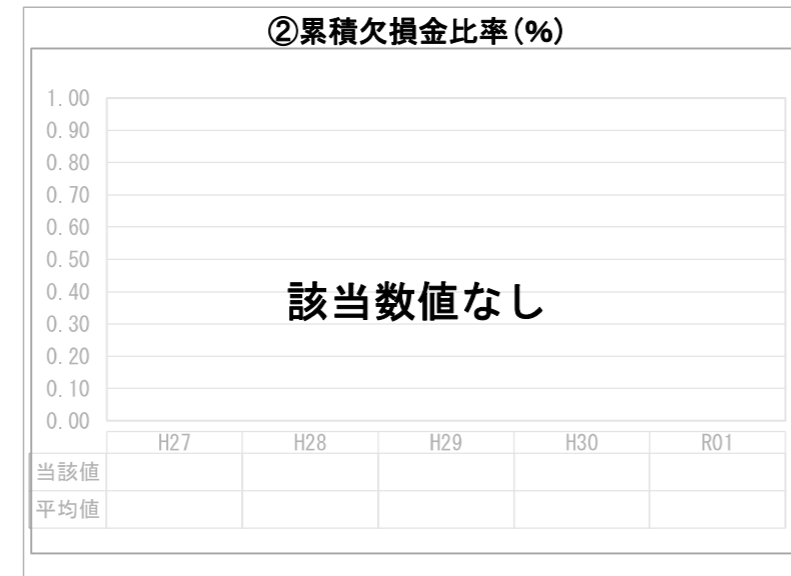
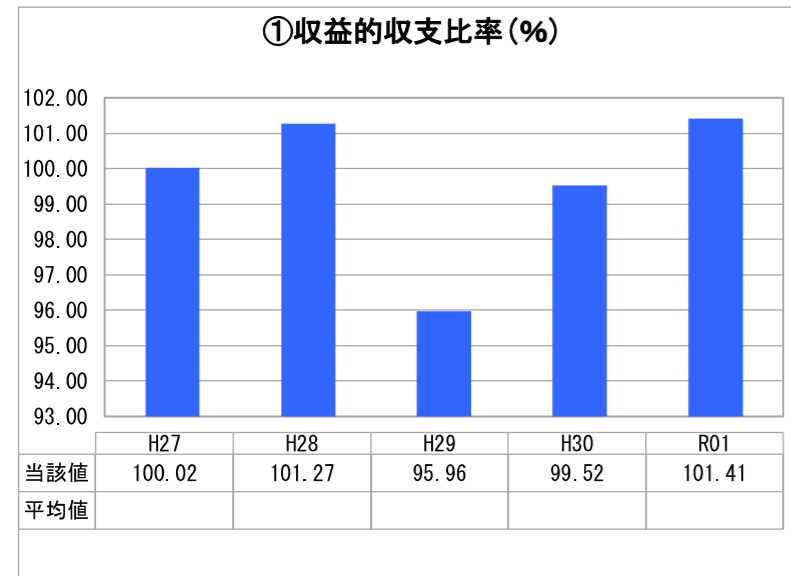
埼玉県 越生町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	農業集落排水	F1	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円)
-	該当数値なし	10.31	83.00	1,925

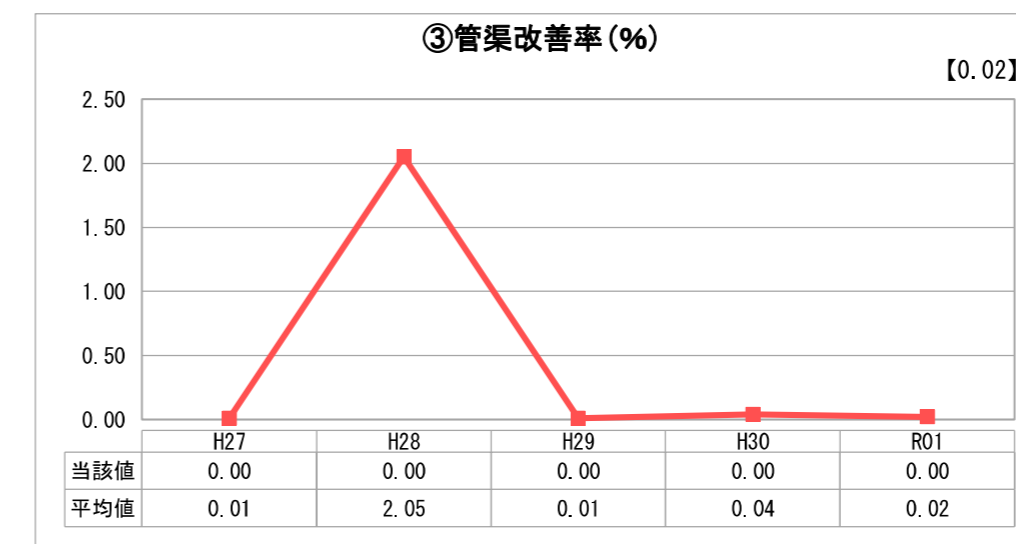
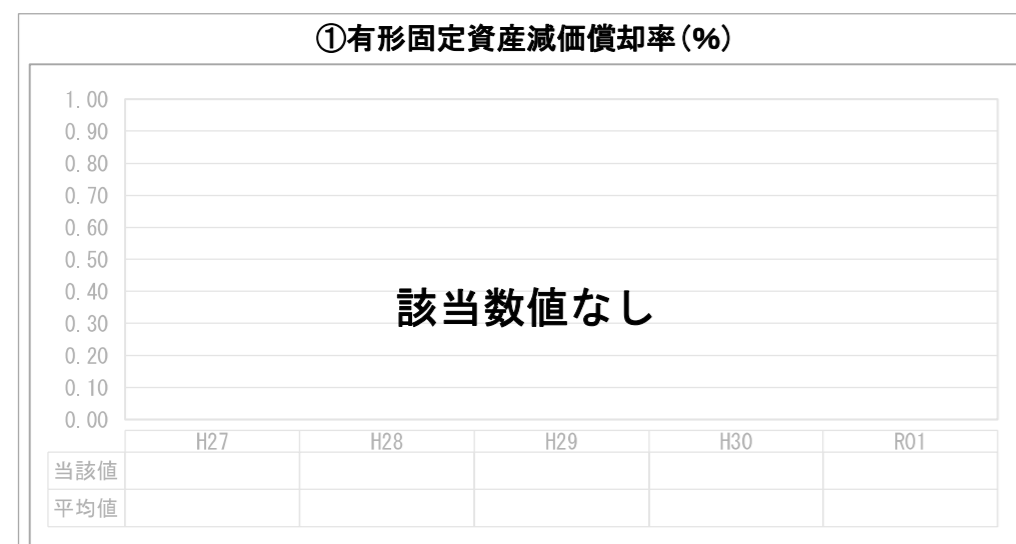
人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
11,567	40.39	286.38
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km <sup>2</sup> )	処理区域内人口密度(人/km <sup>2</sup> )
1,185	1.24	955.65

グラフ凡例	
■	当該団体値（当該値）
—	類似団体平均値（平均値）
【	令和元年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 2. 老朽化の状況



## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

収益的収支比率は100%を上回っているが、経費回収率については、平均値を大きく下回っており、低水準である。  
 そのため、使用料金を適正な額に改定し、経費回収率を上げたいが、公共下水道組合と使用料金を同等としているため、使用料金を増額するのは難しい状況である。  
 施設利用率は微増したが、汚水処理原価は平均よりも高くなっている。数値を見ると増減を繰り返しているため、今後数年間は同じ状況が続くと考えられる。

### 2. 老朽化の状況について

施設の機器について老朽化等により、不具合・故障が増加してきているので、引き続き、緊急性・重要性を考慮し、効率的に修繕・交換等を行いたいと考えている。

### 全体総括

施設の機器の老朽化等により修繕費等の各費用が増加傾向であり、各指標も平均と比較し低水準なものもあるので、今後は主に緊急性・重要性を考慮し、効率的に機器の修繕・交換等を行いたいと考えている。今後、施設利用率は横ばいの状況が数年続くとは考えられるが、浄化槽から集落排水への移行案内チラシを配布するなどをを行い、施設利用率を上げていきたい。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。